

## 山行報告 浅間山周辺 棧敷山 四阿山

【日 程】 2017年2月25日(土)～26日(日)

【形式】スノーシューハイキング

【参加者】CL柘植・SL村尾・鶴田・澤田路・加藤・斉藤一・菌田・吉瀬(記録)

【記録1】2月25日(土) 棧敷山(さじきやま)1931m 晴れ

棧敷山駐車場 12:00-13:30 棧敷山山頂 13:40-15:00 棧敷山駐車場

朝6時前に千葉駅を出発しましたが、今週からはじまったプレミアムフライデーの影響か関越道は断続的に渋滞し、ゆっくりと目的地に向かう車中から雪山が見えました。11時近くに小諸に到着。地藏峠を下り、宿泊予定の『民宿わたらせに』駐車し、棧敷山駐車場から棧敷山へ。

今回「民宿に泊まってスノーシューハイキングを楽しみませんか。」というお誘いで集まったメンバーは『なんだか楽しそう。』と、自前・友人から借用・ヨシキスポーツのレンタルでスノーシューを準備。出発の前日、CLから「スノーシュー装着練習をしてくださいね。」と連絡があったので、眠い目をこすりながら装着練習をした甲斐あって、スムーズにスノーシューを装着し棧敷山をめざすことができました。メンバーのほとんどがスノーシューハイキングは初めて。期待に胸はふくらんでいたのですが、斜面が徐々にきつくなって、「スノーシューでこの斜面を登るの？スノーシューハイキングでこんな感じなの？？」とは思うものの、晴れわたった空は青く、雪原はきらきらとしてきれいだから、だんだん疑問符は消えて、歩くことに集中してゆきました。登りではヒールリフトを使い、急な斜面ではスノーシューの前爪を立てて、登って行きました。途中『モナカ』のような雪のところでは、前爪が立たないので全身を使い登りました。温度調節等で短い休憩を2回ほどとり、頂上に到着。明日登る四阿山が見えました。美しい山容を見ながら皆さんは気温・風等予測していました。

下山は来たルートに戻るため、周りを見る余裕も少しできて、ゆるやかなところでは樹木をみて楽しみました。棧敷山には樹形が特徴的な天然カラマツが多く「羽衣カラマツ」・「鶴舞カラマツ」という名があるそうです。しかし、ところどころにある急斜面の下りは厳しかった。スノーシューの私たちを簡単に下山させてはくれませんでした。大腿四頭筋とストックを駆使したものの、モナカ雪に足をとられ3メートルほど滑り、木の枝につかまって停止した者。またある者は、覚悟を決め、ヒップそりで急斜面を下りました。CLの見立てでは「滑っても林の中だし、急なところチョコットだから大丈夫。ヒップそり楽しそうでしたね」とのこと。ゆるやかな雪原に出た途端、皆「お腹空いたね。今晚はよく眠れるね」と言って宿に向かいました。宿にもお風呂はありましたが、外湯に行こうということになり、女性4人+Trさんは『秘湯の会 紅葉館』に、あとの男性3人は『戸部の湯』で汗を流しました。夕食までのひと時、女子は炬燵で女子会。明日はKtさんのお誕生日ということが分かり、夕食の際全員でお祝いの乾杯をしました。お誕生日を明日に控えたKtさんはご飯を4膳召し上がり元気はつらつでした。









【記録2】2月26日（日） 四阿山（あずまやさん）2,354m 晴れ

パルコール孺恋リゾート…(ゴンドラ)…山頂駅(2,050m) 9:40—12:20 四阿山山頂 12:45—14:20 山頂駅

晴天で温かい。今日は2,000mを超えるのでどの程度衣服を着用しようかと皆さんを見て決めました。四阿山は山頂手前が痩せ尾根で急斜面なのでアイゼン、ピッケルを持参です。山行計画書で『痩せ尾根・急斜面』の文字を見たとき、「大丈夫？」と自分に聞いてみました。「行ってみよう。」という答え。

山頂駅の周りは隅を歩き登山ルートに入りました。森林の中の道を登ったり、下ったりしながら少しずつ高度を上げていきました。2回目の温度調節の後、目の前に急斜面が現れました。雪は締まっていましたけれど、そこを登るのはとてもきつかったです。その後、山頂手前の急斜面が見えました。じっと見ると、足跡がはっきり見えました。山頂手前に着き、風が冷たそうなのでハードシェルを着、スノーシューからアイゼンに履き替え、ピッケルを用意しました。CLからお腹にシュリングを巻きビナを付けるよう言われたのですが、私は巻き方を忘れてしまったため教えていただきました。今シーズン初めてのアイゼン。斜面は急。登山道の幅は狭い。心臓がドキっとしそうでしたけれど、皆さんが肅々と支度を整えているのを見て、『ゆっくり行こう。』と気持ちが定まりました。一步一步。雪を踏みしめる音。一つ目のピークにでました。二つ目のピークが山頂。

山頂に到着。360度の景色。涙がでそうになりました。山頂の祠に手を合わる。写真撮影。ドラ焼きを食べる。そして下り。「大丈夫。一步一步。」山頂からの急斜面を下り終える。アイゼンからスノーシューに。ピッケルを収める。和やかな休憩。とても心が満たされました。

往復の車中で会話、宿での歓談。参加できてよかった。どうもありがとうございました。







写真：村尾・柘植

記録：吉瀬



### 【概念図】

